

大学の世界展開力強化事業（平成24年度採択）中間評価結果

大 学 名	○愛媛大学、香川大学、高知大学
整理番号	I - 6
構 想 名	日本・インドネシアの農山漁村で展開する 6 大学協働サービスラーニング・プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本プログラムは、農山漁村での「協働サービスラーニング」と称して、日本とインドネシアの学生が、それぞれの国の同一地域で地域貢献を目指した協働実践活動を行うなど、特徴ある取組により、異文化の理解と交流を深め、グローバルな人材育成を目的としており、学士から修士、博士課程に及ぶ多層的プログラムの実施など、着実な取組が評価できる。特に、育成する学生と制度の質保証への取組、交流の実績など、多くの面で着実に進行している。</p> <p>また、2 国間 6 大学での単位認定の共通ガイドラインや修了認定基準を策定するなど、各大学の状況が異なる中、統一した制度を構築していることは評価できる。</p> <p>学生の受入と派遣については、初年度の派遣実績は数値目標を下回ったが、次年度は上回る実績が得られている。また、計画に沿って両国で交流の環境整備が実施されていることや、インドネシア側からの留学希望者が多いことなど、今後の発展が期待できる。</p> <p>一方で、全体的な取組が愛媛大学を主体として実施されている印象があり、6 大学のより強く明確な連携と関与により、本プログラムを充実させていくことが望まれる。また、本プログラムの特徴である「協働サービスラーニング」の定義、とりわけ「サービス」と「ラーニング」は何を意図し、何を指すのかをより明確にし、両国の学生による同一地域での活動（協働）から期待される独自の成果の具現化に一層の努力を払い、多層的プログラムによる各課程間の連携や関連性を明確にしていくことが望まれる。</p> <p>今後は、6 大学における単位認定の共通ガイドラインや修了認定基準に沿ったカリキュラムのより一層の充実を、各大学において行っていくことが望まれる。</p>	